



大貫 隆 [著] 東京大学名誉教授  
古代キリスト教思想史

# 原始キリスト教の「贖罪信仰」の起源と変容

NHK 第二ラジオ「宗教の時間」  
6/30、7/7「異端研究の意義 — キリ  
スト教信仰の核心を求めて」というタイ  
トルでオンエアされます。

重版  
決定!

好評 既刊



復活前と現在の「地平」が「融合」する  
ヨハネ福音書の重案構造を解明!  
ヨハネ福音書の「融合」構造を解明する  
解明で定説を揺るがす。ヨハネの全体的な「融合」構造  
に即ち着いてきた福音書研究への気づき。この視点から見た  
訳語に見えてくる新たな「地平」の融合とは。YOBEL Inc. 定価 1,980円

四六判上製・240頁・定価1,980円  
本体1800円+税 在庫僅少  
ISBN978-4-909871-72-5 C0016



拾遺 — 今まで解明されていなかったものを集めて解くこと、  
これほど似つかない言葉があろうか。  
グノーシス主義の歴史は世界的な研究によって学問的・不可欠な関係に  
ある。この視点から日本のグノーシス研究を再考し、再考して来た著者が、  
グノーシス主義の歴史からグノーシス研究の再考。グノーシス研究の再考は、  
神学史上でも初めてつづらねられた。グノーシス研究の再考は、神学史上でも  
初めてつづらねられた。YOBEL Inc. 定価 2,750円

四六判上製・368頁・定価2,750円  
本体2500円+税 在庫僅少  
ISBN978-4-909871-88-6 C0016

贖罪信仰そのものが、いまだ議論と  
再検証の卓上に置かれている!

6月25日重版予定

田中健三氏評 (上智大学神学部講師): 本書は原始キリスト教の力動的な伝播を知ることができるものであり、日本の諸研究者の紹介と批判からは、著者の誠実な研究姿勢が感じられる。(本のひろば 2023.11月号)

澤村雅史氏評 (名古屋学院大学准教授): 人間が抱える存在の破れ、すなわち根源的エゴイズムへの気づきであることを明らかにする。(「贖罪信仰」を多義性の呪縛から贖う。週刊読書人 2024.3月8日号)



- 主な目次  
はじめに  
I 原始エルサレム教会の成立からペトロの指導権時代  
一 イエスの死の必然性の論証/ニ 「人の子」イエスの再臨待望との関わり/三 イエスの死の救済論的・贖罪論的解釈/四 贖罪信仰の成立と定式化  
1 | コリント書一五章3節bの「キリスト」について/2 | コリント書一五章3節b-7節はペトロの「文責」  
五 贖罪論の広がり  
II 主の兄弟・義人ヤコブの指導権時代  
一 ヤコブの年譜/ニ ヤコブの救済論 = 律法の実行による救い  
1 | ヘゲシッポス『覚え書』/2 | エイレナイオス『異端反駁』/3 | ヒッポリュトス『全異端反駁』/4 | エピファニオス『薬籠』/5 | ペトロの宣教集』/6 | まとめ

- III 原始教団のエルサレム脱出とその後のユダヤ主義キリスト教の展開  
一 原始エルサレム教会のペラへの脱出/ニ 神殿倒壊予言の二度目の再活性化/三 その後の影響史・ユダヤ主義キリスト教の諸分派  
1 | ナゾラ派/2 | エピオン派/3 | エールケサイ派/4 | 『ペトロの宣教集』から『ペトロの講話集』へ  
四 ユダヤ主義キリスト教のまとめ  
IV 補論  
一 マタイ福音書/ニ ヨハネ福音書  
1 | ヨハネ福音書の成立地=アグリッパII世の領国のバタネア地方/2 | 新しい論拠(a)「ヨルダンの向こうのベタニア」(ヨハ28)とは何処のことか/(b) R・リースナー(Riesner)のテーゼ=バタネア地方のこと  
3 | 洗礼者ヨハネの弟子団との競合・沐浴運動との接点/4 | 伝承史の系譜/5 | まとめ

- 三 マンダ教団  
1 | マンダ教徒とその聖文書/2 | 「ナザレ人イエス」と「ナゾラ人イエス」/3 | エルサレム脱出以後のユダヤ主義キリスト教との関係/(a) ナゾラ派/(b) エピオン派/(c) エールケサイ派/(d) 『ペトロの宣教集』/4 | まとめ/5 | コーランの中の「サバ人」—— 結びにかえて  
V 結び: 贖罪信仰の起源と変容  
VI 「贖罪信仰」をめぐる現代の議論によせて  
一 「罪の贖い」と「苦難の贖い」の区別/ニ 「罪」の定義の変容/三 「贖罪信仰」の教理化が孕む問題/四 現実性全体の根源への問い/五 補論 神も途上に・再考  
【追記】  
あとがき/引照箇所索引/研究者名索引/参考文献

著者紹介 大貫 隆 (おおぬき・たかし) 1945年静岡県浜松市生まれ。1968年一橋大学卒業、1972年東京大学大学院人文科学研究科西洋古典学専攻修士課程修了、1979年ミュンヘン大学神学部修士・神学博士、1980年東京大学大学院博士課程(前記)単位取得退学、東京女子大学専任講師、1991年東京大学教養学部助教授、2009年同名誉教授、自由学園最高学部長(—2014年)。主な著作:『世の光イエス — ヨハネ福音書のイエス・キリスト』(1984年、改訂増補版、1996年)、『福音書と伝記文学』(1996年)、『ロゴスとソフィア — ヨハネ福音書からグノーシスと初期教父への道』(2001年)、『聖書の読み方』(2010年)、『終末論の系譜 — 初期ユダヤ教からグノーシスまで』(2019年)、『イエスの「神の国」のイメージ — ユダヤ主義キリスト教への影響史』(2021年)、『ヨハネ福音書解釈の根本問題 — ブルトマン学派とガダマーを読む』(2022年)、『グノーシス研究拾遺 — ナグ・ハマディ文書からヨナスまで』(2023年) 著訳書多数。

四六判上製・304頁・定価2,200円  
本体2,000円+税 ISBN978-4-909871-94-7 C0016